

風が島を吹き抜ける。テ
イゴの葉がそよぐ。太陽が
山の端に落ち、夕闇があたり
りを覆う。西の空に金星が
輝きを増す。柳田国男が「海
の道」と呼んだ奄美(日本
書紀によれば海見)群島の
一つ、加計呂麻島へ来てい
る。成人T細胞白血病(ATL)ウイルスに関する研
究のためだ。



ATLウイルス。九州
・沖縄といった南西日本と
北海道に暮らす先住民族の
間に多く見られ、加計呂麻
島にも多い。ヒト社会の中
には一万年以上も前に持ち
込まれたと考えられている
。母乳によって母から子
へ伝えられていく。

二つの意味で不思議なウ
イルスである。第一に地理
的分布が不思議である。九
州・沖縄といった南西日本
と北海道に暮らす先住民族
の間に多く見られると書い
た。それ以外の地域ではほ

今を読む

長崎大熱帯医学研究所教授

山本 太郎



やまもと・たろう 1 長崎大医学部卒業。外務省国際協力局課長補佐などを経て昨年からは現職。その間、発展途上国で感染症対策に従事。著書に「新型インフルエンザ」「ハイチ いのちとの闘い」など。長崎市。

ほとんど確認されていない。いくつかの例外は黒潮に洗われる四国の室戸岬や足摺

説がある。確かにこのウイルスが古代日本と交流の深かったであろう朝鮮半島や

で、アフリカから持ち込まれたとする説も一部に根拠がある。奴隷貿易が、その後の急激な工業化によって黒人たちの国となったカリブ海のハイチなど

には、欧米人たちとともに召し使いや奴隷として連れてこられたであろう多くの黒人が描かれている。

真摯に住民と向き合う彼の姿勢とその言葉に胸を突かれた。もしかすると、こ

日本の過去と未来映す

加計呂麻島に吹く風

岬の周辺、紀伊半島の突端、中国といった大陸にほとんど日本海に浮かぶ島々。なぜ、ど存在しないという事実このような地理的分布を示すのか。

そうした謎を残すATLウイルスが、ここ数十年、業化の波が完全には社会を変えなかつた島、近代化にそつとしている。これが第一取り残された島である。

人口約千五百人のこの島と呼ぶのは間違っているのかもしれないと。

調査の中日の日曜日。吹き抜ける島風を体で感じながら、混在する「過去・現在・未来」を体感する不思議な気持ちにとらわれた。

かつて大陸から渡来した「新日本人」が大和朝廷を形成する過程で、このウイルスを持つ集団であった「古日本人」を日本列島の南北に押しやったという仮

航海時代のヨーロッパ人たちの交易と植民地化の過程

「日本では縄文・弥生時

で僕は最先端の医療をやっ